様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 3 日現在

機関番号：32660
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19520263
研究課題名（和文）　シュトゥルム・ウント・ドラングとヨーロッパ文化史との比較研究

研究課題名（英文）　Comparative study of Western culture and history and Sturm und Drang

研究代表者
今村　武（TAKESHI IMAMURA）
東京理科大学・理工学部・准教授
研究者番号：60385531

研究成果の概要（和文）：本研究は、ドイツ文芸学の立場から、シュトゥルム・ウント・ドラングの一つの概念定義を提出した。この定義は、英米文学研究、フランス文学研究、音楽史、美術史において、18 世紀後半に制作された革新的傾向を持つ芸術作品を比較検討する際、有効である。様々な分野の作品群を、シュトゥルム・ウント・ドラングという様式概念で説明する方途が拓けたことになる。また、学際的・国際的なシュトゥルム・ウント・ドラング研究の基盤整備を行うことが出来た。

研究成果の概要（英文）： This study defined the term ‚Sturm und Drang' as a concept of style from the standpoint of the history of German literature. This new definition is particularly important to consider artistic works in various fields of the 18th Century, which can be explained using the concept of ‚Sturm und Drang' of style. This study also prepared the basis of the interdisciplinary research in ‚Sturm und Drang'.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学（英文学を除く）
キーワード：独文学、Sturm und Drang、概念史、比較文化

１．研究開始当初の背景

19世紀には、戯曲の作品名に過ぎなかった「シュトゥルム・ウント・ドラング」は、ドイツ文学研究に大きな影響を及ぼしたヘットナーによる『18世紀ドイツ文学史』第1巻（1856年）において時代概念として提出されたのを皮切りに、19世紀の研究者によって時代概念としてドイツ文学史に定着した。

20世紀になると、学生運動とも連動して1960年代後半からゲーテ、シラーに代表されるドイツ古典主義文学の再検討が始まり、それを契機に従来は古典主義の準備段階と理解されていたシュトゥルム・ウント・ドラング文学も、とりわけ社会批判性を重視する文芸社会学的見地から見直され始めた。

20世紀の80年代よりシュトゥルム・ウント・ドラングの個々の詩人と作品の詳細な再検討が活発化し、とりわけ詩人ヤーコプ・ミヒャエル・ラインホールト・レンツが注目された。成熟した人格を形成したゲーテとシラーのみがドイツ古典主義文学を創造し、それ以外の詩人は心理学的にも美学的にも未発達の段階にとどまったという旧来の文学史観を塗り替える新たな文学史の執筆が焦眉の課題

となった。

２．研究の目的

ドイツ文学史における概念シュトゥルム・ウント・ドラングは、とりわけ英仏文学史、音楽学、美術史に拡散している。その際、18世紀の同時代における芸術諸分野でのシュトゥルム・ウント・ドラング的な革新的傾向の作品群の同時的成立が指摘されている。

本研究は、ヨーロッパ文化史全体を視野に入れつつ、ドイツ文芸学において時代概念として捉えられてきたシュトゥルム・ウント・ドラングをむしろ様式概念として理解するために、この概念の発生と変遷の歴史を文献学的な作業を通じて明らかにする。と同時に、関連諸分野における現象を考察し、学際的なシュトゥルム・ウント・ドラング研究の基盤を整備する。

３．研究の方法

（1）本研究は、シュトゥルム・ウント・ドラング研究に欠如している文献学的概念史研究を遂行する。

（2）本研究は、ドイツ文学研究に対しては、文学史全体の再検討を要請する。

（3）本研究は、ヨーロッパ文化史研究に一つの研究分野を提案する。

４．研究成果

本研究の成果は、以下の２つの集約的成果と、幾つかの個別の成果として列挙することが出来る。

（1）本研究の成果を研究書の形で上梓し、研究成果を公開した。

（2）新学際研究領域を創成する、という本研究計画の最終的な目標達成のための第一段階として結成した比較文化研究会の研究叢書を上梓し、広く新学際研究領域の意義を知らしめた。

（3）国内外の18世紀研究者との連携を推進した。例えば、平成22年7月末には、ワルシャワ大学で開催された第７回国際ドイツ語学文学大会において、特にバルト海沿岸地域における、レンツを中心としたシュトゥルム・ウント・ドラングに関する発表を行い、日本における研究成果を披露し、各国の研究者とのコンタクトをとることが出来た。

（4）ドイツ・オルデンブルク大学のデーリング教授の協力により、本邦では入手の難しいシュトゥルム・ウント・ドラング関連資料を収集した。例年、関連する学会においても幾つかの発表を行った。さらに、日本におけるシュトゥルム・ウント・ドラング研究・翻訳の総合書誌作成を継続した。詳細なシュトゥルム・ウント・ドラング年表もあわせて作成中である。

以上の研究実績により、所期の研究目的である英仏文学史、音楽史、美術史における革新的傾向を持つ作品群の比較検討に際し、ドイツ文芸学から一つの概念定義を提出した。さらに、学際的・国際的なシュトゥルム・ウント・ドラング研究の基盤整備の礎石を築くことが出来たと総括できる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

① Takeshi Imamura: Das Erzählte und das Erinnerte im ‚Verwundeten Bräutigam' von Lenz. In: Tokyo University of Science. Studies in Liberal Arts and Sciences. Number 43 (2010), S. 209-221. （査読：有）

②Takeshi Imamura: Das Baltikum im Schaffen Herders und Lenzens. In: Goethe-Jahrbuch. Herausgegeben von der Goethe-Gesellschaft in Japan. LI. Band (2009), S. 40-55. （査読：有）

③今村　武、十八世紀のケーニヒスベルクと疾風怒濤（上智大学ドイツ文学会（編）「上智大学ドイツ文学論集」第 46 号、2009 年、3－41 頁）（査読：有）

④Takeshi Imamura: Gerstenbergs ‚Ugolino' und seine theoretischen Schriften im Vorfeld des Sturm und Drang. In: Tokyo University of Science. Studies in Liberal Arts and Sciences. Number 42 (2009), S. 211-229. （査読：有）

⑤ Takeshi Imamura: Sturm und Drang als stilgeschichtlicher Begriff. In: Kulturwissenschaftliche Germanistik in Asien. Band 2. Herausgegeben von der Koreanischen Gesellschaft für Germanistik. Seoul / Korea 2008, S. 77-87. （査読：有）

⑥ Takeshi Imamura: Die deutschbaltische Gesellschaft in J.M.R. Lenz' Drama ‚Der verwundete Bräutigam'. In: Tokyo University of Science. Studies in Liberal Arts and Sciences. Number 41 (2008), S. 285-298. （査読：有）

⑦今村　武、疾風怒濤の「パミラ」――J・M・R・レンツ『軍人たち』のヒロイン（日本比較文学会東京支部編集委員会（編）「日本比較文学会東京支部研究報告」第 5 号　2008 年 10－15 頁）（査読：有）

⑧今村　武、コケットの夢の行方――ヤーコプ・レンツ『軍人たち』――（上智大学ドイツ文学会（編）「上智大学ドイツ文学論集」第 45 号、2008 年、3－27 頁）（査読：有）

⑨Takeshi Imamura: Johann Gottfried Herder und Samuel Richardsons Briefromane. In: Tokyo

University of Science. Studies in Liberal Arts and Sciences. Number 40 (2007), S. 21-36. （査読：有）

〔学会発表〕（計１２件）
① Takeshi Imamura: Zur Sturm-und-Drang-Literatur im Baltikum. (XII. Kongress der Internationalen Vereinigung für Germanistik: Vielheit und Einheit der Germanistik weltweit. Universität Warschau, 30. 07. – 7. 08. 2010. Sektion 37: Erzählte Geschichte – erinnerte Literatur, 31. Juli 2010)
②今村　武、ゲルステンベルク『ウゴリーノ』――疾風怒濤最初期のダンテとシェイクスピア受容（日本独文学会　2010 年春期研究発表会　慶応義塾大学日吉キャンパス　2010 年 5 月 30 日）
③今村　武、ヘルダーとレンツにおけるケーニヒスベルク（日本独文学会　2009 年春季研究発表会　明治大学駿河台キャンパス　リバティタワー　2009 年 5 月 30 日）
④今村　武、レンツ『軍人たち』における「不道徳な」ヒロイン（比較文化研究会　2009 年第 2 回定例研究会　東京理科大学・九段校舎 2009 年 8 月 7 日）
⑤今村　武、スイスの疾風怒濤詩人フュスリとイギリスのロマン主義（日本比較文学会東京支部　日本比較文学会第 47 回東京大会千葉大学・西千葉キャンパス　2009 年 10 月 17 日）
⑥今村　武、ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』と『親和力』の「不道徳性」（比較文化研究会　2009 年度第 5 回定例研究会　東京理科大学・九段校舎　2009 年 12 月 25 日）
⑦今村　武、バルト・ドイツ人の文化と疾風怒濤（日本独文学会　2008 年度春季研究発表会　立教大学　2008 年 6 月 14 日）
⑧今村　武、ヤーコプ・ミヒャエル・ラインホールト・レンツ『傷ついた花婿』における人間関係とバルト・ドイツ人の社会（日本人間関係学会・文学と人間関係部会　2008 年度第 2 回定例研究発表会　東京理科大学九段校舎　2008 年 6 月 28 日）
⑨ Takeshi Imamura: Das Baltikum und die Sturm-und-Drang-Literatur (Asiatische Germanistentagung 2008 in Kanazawa: ‚Transkulturalität – Identitäten in neuem Licht. 26. – 30. August 2008. Kanazawa-Seiryo Universität / Kanazawa Art Hall, Sektion 3A, 28. August 2008)
⑩今村　武、チューリヒの疾風怒濤グループ（日本独文学会　2007 年度秋季研究発表会大阪市立大学杉本キャンパス　2007 年 10 月 8 日）
⑪今村　武、疾風怒濤の『パミラ』――Ｊ・Ｍ・Ｒ・レンツ『軍人たち』のヒロイン（日本比較文学会　第 45 回東京大会　フェリス女学院大学緑園キャンパス　2007 年 10 月 13 日）
⑫今村　武、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』（日本人間関係学会 15 回記念大会　シンポジウム「文学と人間関係――グロテスクさについて」東京理科大学野田キャンパス・セミナーハウス 2007 年 10 月 28 日）

〔図書〕（計２件）
今村　武『シュトゥルム・ウント・ドラング研究―-レンツの文学と西欧文化史』南窓社 2009 年　260 頁
今村　武・橋本由紀子・小野寺玲子・内堀奈保子『不道徳な女性の出現――独仏英米の比較文化』南窓社　2011 年　13-94 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計◇件）

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
今村　武（IMAMURA Takeshi）
東京理科大学・理工学部・准教授
研究者番号：60385531

(2)研究分担者
なし　（　）
研究者番号：

(3)連携研究者
なし　（　）
研究者番号：